



気胸

(気胸とは?)

空気を吸ったりはいたりして酸素を体に取り入れ、二酸化炭素を体の外へ出す働きをする中心が肺です。その肺の表面に穴があいて、胸の中で肺が“パンク”してしまう病気が気胸です。肺が“パンク”をした時や、その後に胸の痛み、息苦しさが出ます。

気胸には、病気や外傷などの原因が無く、突然起こる特発性自然気胸、病気が原因で起こる続発性気胸、外傷などで起こる外傷性気胸があります。いずれも運動時に起こるとは限らず、安静時や睡眠時に起こることもあります。

気胸かどうかは、胸部レントゲン撮影によって判断できます。

(原因)

特発性自然気胸の多くは、ブレブという破れやすいところの破綻によります。

発症年齢をみると20代が多く、10~30代が全体の80%を占めています。また、男女別では、8対2と圧倒的に男性が多く、特に若い痩せ形の男性に多いようです。

続発性自然気胸の原因となる病気には、肺結核、肺気腫、気管支喘息、肺線維症、肺がんなどがあります。

外傷性気胸は、胸腔穿刺、肺生検、中心静脈栄養、気管内挿管など、呼吸器系の検査や治療のために、胸膜に圧力がかかったり、針を刺すことで起こります。また、肋骨骨折などの外傷も原因になります。



(症状)

多くは、突然の胸痛で始まります。軽度の場合は、軽い胸痛ですみませんが、ひどくなると息切れや空咳などを伴います。さらに重症になると、動悸や呼吸困難、不安感などを伴い、冷や汗がみられることもあります。

一方で、自然気胸のなかには自覚症状がなく、健康診断などで偶然発見されるものもあります。

安静で治まることもありますが、症状がひどい場合は、胸腔内にチューブを入れて、空気を吸い出します。

自然気胸を繰り返す場合はVATS（胸腔鏡下手術）を行う場合が多いです。ただ、続発性気胸で手術の適応にならない場合、胸腔内に癒着薬を入れる胸膜癒着法という方法もあります。